

■(勝定院)足利義持

あしかがよしもち
南禅寺五山上1386=

室町幕府4代将軍。泰平の時代を実現するも、後継を定めず、室町幕府衰退の原因を作った。

生。足利義満の長子、母は醍醐寺三宝院坊官安芸法眼の女藤原慶子。同腹の弟妹に第6代将軍義教および入江殿聖仙がいる。

南北朝合一・1392= 6歳：

義満太政大臣1394= 8歳：元服して正五位・左馬頭に叙せられると同時に父義満の譲りをうけて将軍となった。しかし幕府政治は依然として義満がおこない、義持は名目上の将軍に過ぎなかった。

今川了俊召還1395= 9歳：

・・・・・・1396=10歳：参議，
金閣寺・・・・1397=11歳：従三位から従二位，中納言，

・・・・・・1400=14歳：幕府評定始にはじめて着座し，判始の儀をおこなったが，父義満の在世中は形だけの将軍で，みずからの花押をすえた文書を発給して政務をとることはなかった。しかも義満は義持の異母弟義嗣(母は摂津能秀の女春日局)を寵愛し，義持は後継者たる地位も危ぶまれていた。

遣明船始・・・・1401=15歳：

花伝書・・・・1402=16歳：正二位から従一位，

日明貿易成立1404=18歳：

・・・・・・1406=20歳：兼右近衛大将と朝廷の官位は順調に進み，

足利義満没・1408=22歳：

*義満が急死すると，幕府の長老斯波義将らははからいにより足利氏の家督を嗣いで室町第から北山第に入り，はじめて幕府政治を主宰することとなったが，義満の死後ただちに義満に対して朝廷から太上法皇の尊号宣下があったのを斯波義将の意見を容れて辞退した義持は，その後父義満がおこなったことに対する反対行為をつぎつぎにおこなった。やがて三条坊門の祖父義詮の任居跡に新築を築き，

持氏鎌倉公方1409=23歳：

*幕府をここに移した。内大臣に任じ，義満の怒りに触れて相国寺の住持を罷免された大周周備を復帰させ，義満のために所領を没収されて嵯峨に隠棲していた伏見宮栄仁親王に家領を返付するなど，公家化への傾向がきわめて強かった父義満に対して幕府政治を武家本来の姿にもどそうとつとめ，公家よりも武家を重んじた。幕府の長老斯波義将の意見を強く反映し，義満が再開した明との国交・貿易を中止したのをはじめ，管領重用の方針をとり，義将のあとはその子義重，ついで義重の子義淳，畠山満家，細川満元，そのあと再び畠山満家が相ついで管領として義持を補佐することで，幕府の権威が維持され，義持の治世は，相対的に安定した時期であった。

・・・・・・1410=24歳：後亀山上皇が吉野に出奔，
・・・・・・1411=25歳：飛騨国司姉小路弄綱が叛してこれを討ったが，
・・・・・・1413=27歳：淳和・奨学両院別当に補されたが，
・・・・・・1415=29歳：伊勢国司北畠満雅の挙兵をみた。

上杉禅秀の乱1416=30歳：さらに関東の上杉禅秀の乱に応じて弟の義嗣が義持を倒そうとして失敗，義持は義嗣を捕えて相国寺林光院に監禁し，

・・・・・・1418=32歳：これを殺すといった事件がおこっている。

応永の外寇・1419=33歳：

内大臣を辞す。
このころから常陸の佐竹氏，甲斐の武田氏をめぐって京都の幕府と鎌倉府との間が険悪となり，義持は諸将を会して評議の結果，

・・・・・・1422=36歳：

足利義持出家1423=37歳：二度にわたって関東の諸家に鎌倉征討に合力すべきを命じたが，鎌倉御所足利持氏の屈服により出兵は中止された。_将軍職を子の義量に譲り，出家して道詮と称したが，政務はその後も続け，

将軍不在化・1425=39歳：

*子の義量が早世すると，義持は法体のまま再び幕政をみることとなった。将軍継嗣問題に波紋を投げ，清涼殿の東庭で猿楽を演ぜしめている。赤松義則の死後，その領国のうち播磨を召し上げて幕府の料国とした上で，赤松一族で義持の寵臣であった持貞に預けようとしたため，これを不満とした赤松満祐が一族を率いて下国するという事件がおこったが，畠山満家らの尽力で落ち着いた。

・・・・・・1427=41歳：

義教籤引将軍1428=42歳：

傷に感染して重病となり，管領以下有力大名の勧めにも継嗣を決定せず，協議に任せて，_没した。義持は神仏に対する信仰心厚く，とくに臨濟宗に強い関心を示した。和歌や連歌をたしなみ，猿楽能を好んだ。室は日野資康の女栄子。義満室北山院日野康子の妹にあたる。義量は栄子との間の子で，父義満が多くの子を産んで多数の子女をもうけたのに対して，義持の側室については知られておらず，従って子供にも恵まれず義量の死後は後嗣がなかった。死の直前に至っても義持は後継者を定めなかったため，管領畠山満家以下宿老相議して義持の弟4人の中からくじをもって義円と定めた。のちの義教である。